

## 投 稿 要 領

(2018年7月改訂)

1. 本誌が受け付ける投稿種別は下記のとおりとする。ただし、特集号の依頼論文など、編集委員会がとくに指定したものについては、この限りではない。
  - (i) 研究論文
  - (ii) 研究ノート
  - (iii) 学界動向
  - (iv) 会員通信
  - (v) 海外学会報告・研究短信
 その他、投稿原稿の枚数、体裁や提出時の注意事項は3.(5)(6)を参照のこと。
  
2. 本誌に投稿できる者は、日本教育学会会員（新入会の場合は理事会の承認を得た者）であり、当該年度の会費を納入している者とする（共同執筆の場合も同様）。
  
3. 研究論文および研究ノートの投稿について。
  - (1) 研究論文および研究ノートは、未発表のものに限る。ただし、口頭発表やその配付資料、発表要旨集等はこの限りではない。投稿論文と内容的に非常に関係の深い論文がある場合、その抜刷またはコピーを合わせて提出すること（メールによるPDFファイルの提出や掲載ページのURLの報告も可）。原稿と同時に郵送で提出する場合は氏名、所属、科研費課題番号等が見えないよう削除・マスクングすること。
  - (2) 他の学会誌、研究紀要などへの投稿原稿と著しく重複する内容の原稿を本誌に併行投稿することは、これを認めない。
  - (3) 共同執筆の場合は、別紙にそれぞれの執筆分担箇所を明記する。明記できない場合は、役割分担を示すこと。
  - (4) 「研究ノート」とは、研究論文と並立するもので、とくに以下のような特徴をもつ論述をさす。  
 特定の主題に関して、
    - ①研究動向・事実状況等を展望し研究上の提言を行ったもの。
    - ②史・資料の紹介に重点をおきつつ、考察を加えたもの。
    - ③その他の萌芽的研究を記したもの。
  - (5) 審査の公正を期し円滑にすすめるため、以下を厳守すること。
    - ①本文の原稿枚数は下記のとおりとする。
 

(i) 研究論文	21枚以内
(ii) 研究ノート	17枚以内
(iii) 学界動向	2枚以内
(iv) 会員通信	1枚以内

## (v) 海外学会報告・研究短信 4枚以内

用紙はA4判、1ページ22字×45行、上下余白各15mm、左右余白各65mmとする。上記の枚数には、本文の他、タイトル、注記、図表、参考文献等を含む。注記、参考文献は本文と同じ文字サイズとすること。

図表等の文字数は、本誌(B5判)に掲載された場合のスペースに相当する文字数としてカウントする(例えば本誌1ページ全体の大きさの図表は上記原稿2枚に相当する)。

- ②論文本文と、英文摘要およびその邦文訳の冒頭にタイトル・副題をいれること。ただし氏名、所属等は記入しないこと。
- ③論文中に「拙稿」「拙著」「筆者の既発表論文」あるいは「科研費課題番号」などの表記や、共同研究者への謝辞など、投稿者が判明するような記述を行わないこと。
- ④「研究ノート」として投稿する場合は、タイトルの前に〈研究ノート〉と記すこと。
- ⑤原稿にはページ番号を付すること。

## (6) 提出物は以下のとおりとする。

- ①論文本文：原稿は、クリップでとめ(ステプラー綴じにしない)、4部(複写でよい)提出する。いったん提出した原稿の差し替えは、原則として認めない。また、原稿は返却しない。
  - ②英語摘要とその邦訳：原稿は、「500語以内の英文摘要」と「その邦文訳」を1セットにし、4部提出する。それぞれの冒頭に英語、日本語のキーワードを各5語ほど記入すること。
  - ③別紙：別紙(1部)に論文タイトル、氏名、所属および職名、連絡先(住所・電話・メールアドレス)を記入すること。
- (7) 投稿された論文については、採択・不採択を問わず編集委員会からの査読コメントを送付する。ただし、査読コメントに対する問い合わせには応じない。

4. 日本教育学会から刊行する機関誌および報告書等の編集著作権は、本学会が有するが、編集著作物に掲載された論文・報告書の著作権は、著作者が有する。また、編集著作物に関する使用料は、本学会の収入とする。

5. 投稿論文の締切は、奇数月の月末必着とする。月末が土・日・祝日の場合は、その前日を締め切りとする。

## 6. 投稿論文送付先

日本教育学会機関誌編集委員会

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-15-2 クレアル神田102